



# *British Hills*

- 文化的背景と見どころ -

## ブリティッシュヒルズへようこそ

### マナーハウスについて

#### マナーハウス内施設紹介

- |               |               |
|---------------|---------------|
| 1. エントランスホール  | 9. スヌーカールーム   |
| 2. アーモリー      | 10. チャペル      |
| 3. トロフィールーム   | 11. アポセカリィー   |
| 4. アンバサダーズホール | 12. ミュージックルーム |
| 5. リフェクトリー    | 13. ジム        |
| 6. キングスルーム    | 14. ビクトリアンアレー |
| 7. クイーンズルーム   | 15. ボールルーム    |
| 8. ライブラリー     |               |

#### 宿泊棟について

- |              |             |
|--------------|-------------|
| 1号棟「レン棟」     | 5号棟「ニュートン棟」 |
| 2号棟「ベントレイ棟」  | 6号棟「チャーサー棟」 |
| 3号棟「ヘンリーⅡ世棟」 | 7号棟「ターナー棟」  |
| 4号棟「ホルバイン棟」  | 8号棟「ドレイク棟」  |

#### その他の建物について

- 「フォルスタッフパブ」
- 「クラフトハウス：アスコットティールーム」
- 「バラック棟：9号棟」

## ブリティッシュヒルズへようこそ

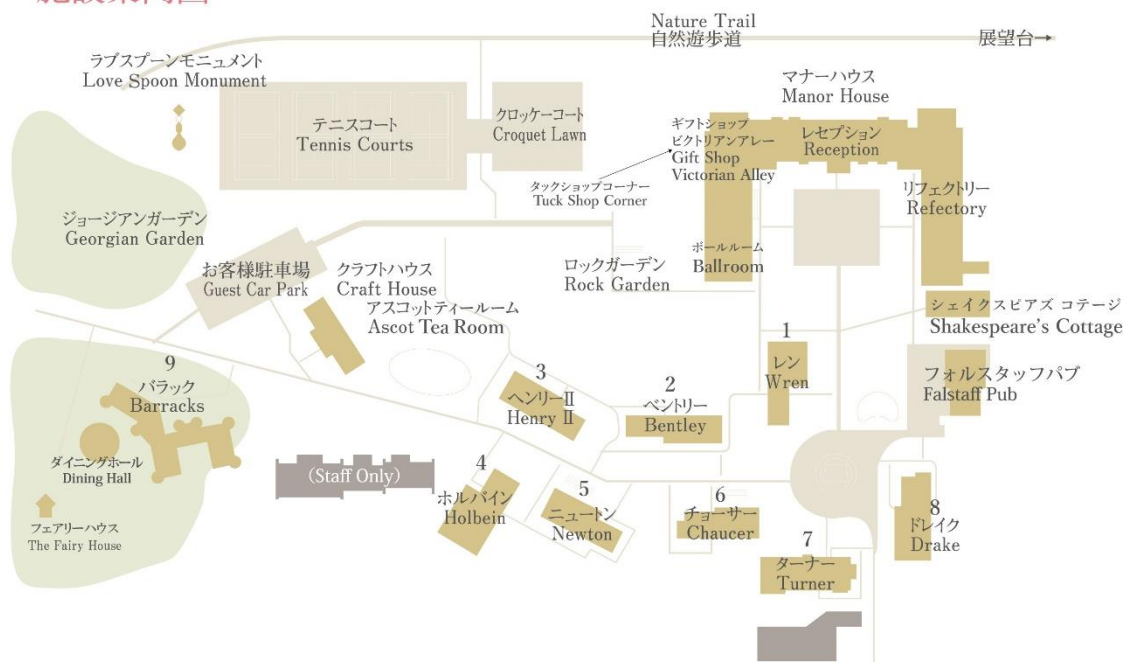
南福島の山深く、海拔 1,000 メートルのブリティッシュヒルズによようこそおいでくださいました。ここはパスポートも査証もない、「日本の中の英国」です。皆様をお迎えするのも正真正銘の英国または英連邦出身の教員・スタッフ達です。では、なぜこのような施設が創り出されたのでしょうか？

四季折々に移りゆく自然環境を楽しみ、種々のレジャー施設を活用しながら「言葉と文化」を結びつけて国際社会に貢献し、リーダーシップを発揮できるような人材育成の研修を行うことが、このブリティッシュヒルズのねらいなのです。いうなれば、研修とリゾートを融合した、極めてユニークな「リゾート・インスティテュート」なのです。

これは、神田外語学院と神田外語大学の運営にあたる学校法人佐野学園の 3 代にわたる歴代理事長が、四半世紀以上の構想を練りに練って創り上げた成果なのです。数々の建物のデザインから家具、調度品にいたるまで、徹底した「本物志向」に貫かれています。ヨーロッパ、特に英国でのご経験深い方々にお喜びいただけるのは無論のこと、海外経験になじみのない学生の皆さんにも十分活用いただけるような「仕掛け」が設けられています。

たとえば、チェックインされるレセプション・デスクは、通常のホテル業務よりはむしろ英国到着時のイミグレーションの指向となっており、また、ブリティッシュヒルズ独自のポンド紙幣は、空港でのバンクカウンター業務を演出しています。この他、いたる所に「リゾート・インスティテュート」のコンセプトが埋め込まれていますので、どうぞ実際にお楽しみ下さい。

### 施設案内図



## マナーハウス (Manor House) について

英国貴族は、王から与えられた領地に荘園 (manor、マナー) を営み、その中の屋敷に居住し、領地を治め、王に仕えました。この領主の屋敷が **manor house**、マナーハウスです。

貴族は、自分の領地と国王のいるロンドンとを往復する二重生活を送っていました。しかし生活の中心はあくまで領地にあり、このマナーハウスを中心とした貴族たちの生活の中から、礼儀作法やスポーツを含め英国の田園文化が生まれました。

ブリティッシュヒルズは、12～13 世紀に作られた古い城を基に、19 世紀のヴィクトリアン様式を取り入れた内装を施したマナーハウスとして再生させたという想定で作られています。

マナーハウスの数多い部屋には、それぞれに独自の役割がありましたので、歴史の実例に沿って部屋のネーミングがされています。その意味などを簡単に説明しながらご案内していきましょう。

なお、本文で解説しきれない見どころは →**見どころ**マークで付記します。

(絵画や調度品は移動する場合があります。ご了承ください。)

### Manor House Ground Floor (1階)



## マナーハウス内施設紹介

### 1. エントランスホール (Entrance Hall)

まず玄関口の天井を見て下さい。どこかで見たような色合いとデザインとは思いませんか？これは18世紀中頃から大流行となったウェッジウッド流の漆喰工法です。続いてエントランスホール自体の天井も同様になっています。

マホガニーの壁面は、伝統的な連続模様のパネル張りになっていて、布を折り重ねたようなリネン・フォールド・パターンと、その上部は中世以来重用された寺院の回廊・キャシードラル・アーチが並べられています。長い間ながめていても飽きがこないのが、この連続模様の特徴なのです。

機能の面からは、このエントランスホールはマナーハウス自体の「公と私」にわたる二つの顔があります。朝、館の主が寝室から大階段を降りてホールに現れると、正面の大机には新聞や郵便物がきちんと並べられています。やがて陽も高く上がる頃には種々の訪問客が姿を見せるようになります。

ブリティッシュヒルズのエントランスホールには、特別な役割を果たすレセプション・デスクが設けられています。「パスポートも飛行機の切符もなしで来られる外国」の役割をもつ研修施設なので、お客様には海外渡航時の「入国手続き」と似た書式を使って宿泊の登録をお願いしているのです。

外国に着いて入国手続きの後には何が必要でしょうか？手持ちの「円」を現地通貨に両替しますね。ブリティッシュヒルズでもビクトリアンアレーやパブなどで、専用通貨ブリティッシュヒルズポンド（BHポンド）をお使いいただけます。1BHポンドは常に100円で

→[見どころ](#) 正面階段「ウェルシュ（ウェールズ）・ドラゴン」



### 2. アーモリー (Armoury)

定員40名の中研修室。本来のマナーハウスではこのあたりに武器庫があったということからアーモリーと名付けられました。

→[見どころ](#) 絵画「スコットランド近衛騎兵士官」「軽騎兵総突撃」「英国騎兵士官像」

### 3. トロフィールーム (Trophy Room)

同じく中研修室。このトロフィーは、ゴルフの優勝カップではなく、「戦利品」「記念品」のことを意味しています。マナーハウス館主の先祖が戦場で勝ち取った戦利品が納められていたのです。

→[見どころ](#) 絵画「英国各王朝系図」「スコットランド王（ロバート・ブルース）飾像」「リチャード1世飾像」「英国騎士団の出撃」「ヘンリー1世」

#### **4. アンバサダーズホール (Ambassadors' Hall)**

正式名称を「アンバサダーズ・レクチャーホール」という、定員 100 名の大研修室。プロジェクター、DVD の各種映写設備と巻き上げスクリーン、同時通訳の設備も整い、オリエンテーションから様々な講義、研修に使われています。

周囲の壁にはずらりと歴代の英国公使、大使のポートレイトが掲げられており、これがこの講堂の名称の由来です。

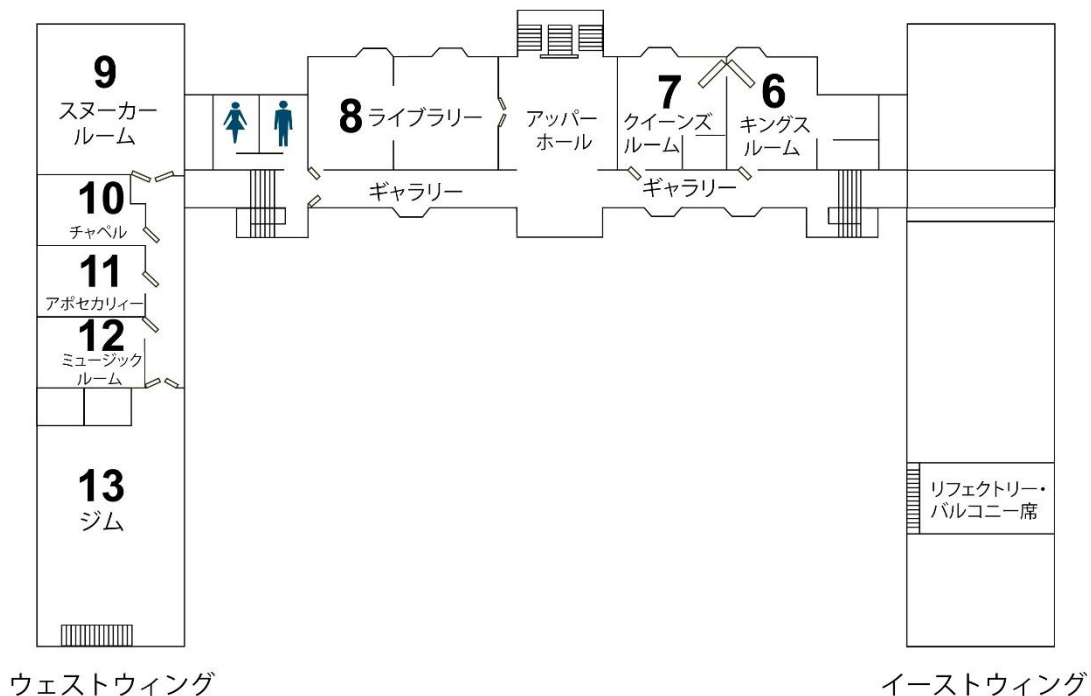
#### **5. リフェクトリー (Refectory)**

リフェクトリーという単語は、中世以来の僧院や大学で修行生達が一堂に会して食事をする大広間をさします。英国の伝統的な全寮制の学校や大学寮の食堂に見られるように、高い吹き抜け天井には木材の骨組みが露出するクイーンズ・ポスト様式とよばれる中世様式をとっています。

一段高いフロアは学寮では教員の席ですが、リサイタルなどのステージとして活用されています。その反対側には「学長フロア」とも呼ばれる階上バルコニーがあり、貴賓席・小グループ用貸し切りスペースとして使われます。

両側の壁面に掛けられた様々なデザインの花は、英国内の主要な州や都市の紋章です。

### *Manor House First Floor (2階)*





## 6. キングスルーム (King's Room / His Majesty)

ここはマナーハウスの主が居住する部屋です。しかし、なぜ「王様の部屋」と呼ばれるのでしょうか？ それは、マナーハウスに国王や王族、高位の大貴族などが宿泊される際に、館主は館の中で最高の部屋、つまり自分の居室を提供するからなのです。

居間の部分はヴィクトリア時代の王侯の居室としてデザインされています。椅子の肘掛けや脚の部分は「日の没するところ無き大英帝国」を象徴するライオンが使われています。また、大英帝国の勢力が中近東に伸びていくにつれ、ランプスタンドにラクダの像が使われたり、イスラム風の家具が出てきたりします。

寝室のベッドはチューダー朝様式になっています。天蓋の支柱は「廻し彫り」と呼ばれるもので、技法的には日本のこけし作りと同じ物と言えます。このがっちりした柱に支えられた天井板の周囲にはゴシック様式の彫刻が施され、重厚な趣きを生み出しています。ベッドを実際に見ると、長さが寸詰まりのように感じられるかもしれません。しかし、本場の英国でこの時代の寝台を見て歩いても同じなのです。真相は、当時は厚手の枕やクッションを積み重ねて頭板に寄り掛かって寝ていたということのようです。一説には、いつ襲ってくるかわからない暗殺者からとっさに身を守るためだったとも言われています。

→**見どころ** 壁画「ユニコーン・タペストリー (貴婦人と一角獣) (複製)」、手彩色銅版画「大鹿」

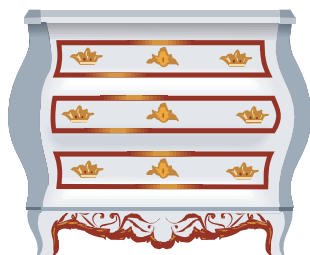
## 7. クイーンズルーム (Queen's Room / Her Majesty)

館主夫人の部屋で、その機能は前述のキングスルームと同じです。だんな様の部屋に通じるドアは両側から鍵がかかる二重扉になっていますので、どちらか一方がご機嫌をそこねると相手方は中に入れません。

この夫人用の部屋は館主の部屋とは違いソフトな感じがします。その効果を演出しているのは家具の曲線です。ロココ調の名残がうかがえるベッドのカーブや長椅子の背もたれに優美な曲線が見られます。また前の部屋では家具の脚が猛々しいライオンでしたが、この部屋では椅子の脚が卵を抱いた水鳥の脚になっています。

さらにこの部屋は、大英帝国が世界に手を広げ、異国趣味がもてはやされた時代の面影を残しています。エジプト調の家具、当時フランスで大はやりだったジャポニズムの影響が見られるベッド、キャビネットの中には中国のものをまねた英国製の磁器、などがあります。

→**見どころ** 手彩色銅版画 2点「ヴィクトリア女王即位宣誓式」「朝の散歩」、「ライティング・スロープ」



## **8. ライブラリー (Library)**

今日の図書室の機能を持ったスペースが英国の城館に定着し始めたのは 17 世紀中頃からだと言われています。国内の戦乱から開放されつつあった貴族や富裕地主階級（ジェントリ）が、“文化度”を競う余裕が出てきたのでしょう。しかし、実際の図書の選定から購入・分類・保存等を行ったのは館主自身ではなく、「司書」（Librarian）と呼ばれた人たちだったようです。

当館の図書室には 19 世紀のものを中心に約 1,600 点の蔵書があり、それが 2 つのデザインを持つ部屋に収納されています。

最初のセクションは伝統的な英国の社交クラブのムードを備えています。このセクションにはチェス・セットとジョージアン王朝期のゲームテーブルがあります。ゲームテーブルは、盤を引き開けるとチェス・チェッカー・バックギャモンや古式双六が現れる仕掛けです。

もう片方のセクションは重厚な会議室風になっています。ここはマナーの研修や企業の重要な会議にも使われます。

→**見どころ** 壁画「マグナ＝カルタ（複製）」、手彩色銅版画「ウインザー城のたたずまい」、肖像画 2 点「レン」「ニュートン」

## **9. スヌーカールーム (Snooker Room)**

本来は、ディナーの後、館の主が男性客と共に香り高い葉巻をくゆらせつつ、ブランデー・グラスを片手にくつろいだのがこの部屋でした。「社交」のためのゲーム室なのでバーの設備がしつらえられています。

スヌーカーはビリヤードよりも球のサイズを小さくして球を増やし盤面を拡げて複雑なゲームにしたもので、英国では広く人気のあるゲームです。

ここにあるスヌーカーテーブルは一台の重量が約 1 トンあります。英国の職人が国際競技規格に基いて現場組み立てを行いました。

## **10. チャペル (Chapel)**

館主とその家族は日曜日には教会へ行きましたが、それ以外にも折に触れて神と接する場所として館内に家族用の礼拝堂を設けました。

当館では、このチャペルの聖別を受け、キリスト教各派の結婚式を執り行っています。

祭壇左手の説教台は、18 世紀に作られたもので、取り壊される運命にあった英国国教会のある教会から入手したものです。



## **1.1. アポセカリー (Apothecary)**

英国では古い言葉で、薬局・薬剤室を意味します。実は中世以来の城の中では、錬金術師が城主の要請で黄金を創り出そうと四苦八苦していたのがこの種の部屋だったのです。その後近世にかけては、館の女主人が庭の草花から香水や消化剤を作ったり、さらには若返りの薬を生み出そうと努力したり (!) してきました。

## **1.2. ミュージックルーム (Music Room)**

マナーハウスには、英国貴族が催していた演奏会などで使用する楽器を保管するための倉庫としてこの部屋がありました。

## **1.3. ジム (Gymnasium)**

ウェストウィング 2 階の突き当たりの広いスペースがジム (体育館) に当てられています。雨天や雪に降り込められた日々の室内での運動用に作られています。様々なゲームの用具もそろっていますので、貸し出しは 1 階のレセプションまでお越しください。

9:00~17:30 までは、広々としたスペースを活用したレッスン用に、教室として、ホッケーやクリケット体験、ダンス、ドラマなどで使用されます。

## **1.4. ビクトリアンアレー (Victorian Alley)**

英国の経済発展の絶頂期「ビクトリア朝時代」の Alley (アーケード) から高価・高品質な商品をたくさん取り揃える様子をイメージしたギフトショップは、年間を通して四季折々の商品が店頭に並びます。長年ビール醸造に携わったスタッフとビール会社がコラボ開発したビールは、古き良き英国のブロンドエールを現代に再現した、ここでしか味わえないブリティッシュヒルズ限定の商品です。その他にも、英国に関連した紅茶やお菓子などを多数取り揃えています。

### **【Tuck Shop Corner (タックショップコーナー)】**

英国の学校に必ずある購買部です。Tuck とはお菓子のこと、日本では珍しいキャンディなどを量り売りしています。より実用的な英語でのコミュニケーションに挑戦できる場所です。ここでのお買物はブリティッシュヒルズポンドのみ使用可能ですので、レセプションにて、英語での両替も体験してください。※3BH£ = ¥300 が必要になります。

## **1.5. ボールルーム (Ballroom)**

舞踏会を催す空間として知られるボールルームは、煌びやかなシャンデリアとイギリスの教会で親しみのあるチャーチベンチが並び、厳粛な雰囲気を感じさせます。ベンチを収納すると広々とした開放的な空間が生まれ、研修・コンサート・パーティーなど様々なシーンで使用できます。

## 宿泊棟について

皆さんが泊まる宿泊棟は、9つの建物がありますが、それぞれの建物は異なった時代の建築様式を表現しており、家具、調度品のデザインはその時代に合ったものが、建物の呼び名はその時代にふさわしい人物の名前が選ばれています。カーテン、ベッドカバーの柄など細部にまで至る違いやこだわりをご堪能ください。(9号棟「バラック棟」については、後述『その他の建物「バラック棟」』参照)

### **1号棟「レン棟」：スチュワート様式**

サー・クリストファー・レンは建築学の大家で、現在ロンドンの名所の一つである聖ポール大寺院の改築も、彼の設計に基くものでした。(ライブラリーに彼のポートレートがあります。)時代区分としては、17世紀から18世紀初頭にかけての、即ちスチュアート朝よりハノーヴァー朝に至る頃となります。この時代のデザインにはルネッサンス末期の名残とバロック期の趣味が混在しているものが多いのです。

日本においては、ようやく「蘭学」に対する目が開かれ、オランダとの通商を通じて世界に対する関心が見受けられる頃となります。

### **2号棟「ベントレイ棟」：スチュワート様式**

17世紀を通じて英国での古典学(即ちギリシア・ローマ文化の総合的研究)を確立したケンブリッジ大学のベントレイ教授の名をつけています。ラウンジの絵も特にギリシア神話に因んだ画題を取り上げて、ハウスの主題に適応させてあります。

日本においては、徳川幕府がその政権の基礎を固めて行く時期です。

### **3号棟「ヘンリーⅡ世棟」：ヨーマン様式**

12世紀に事実上英国を統一した国王に因んだデザインとなっています。日本ではちょうど“源平時代”に相当します。ラウンジには騎士道華やかかなりし頃のイメージ画が掲げてあります。

### **4号棟「ホルバイン棟」：チューダー様式**

16世紀前半にヘンリー8世治下のチューダー王朝の宮廷で肖像画家として名声を馳せた大画家の名をつけた宿泊棟です。ラウンジ画は、有名な Hampton 宮殿にある“ヘンリー8世と妃達”の肖像画の模写であります。

日本においては、“戦国時代”が始まる頃となります。



## **5号棟「ニュートン棟」：スチュワート様式**

英国を代表する物理・天文・数学者のニュートンが、りんごの落下を見て万有引力を発見した話はあまりに有名です。（ライブラリーに彼のポートレートがあります。）

時代としては1号棟（レン棟）とほぼ同じ17世紀から18世紀初頭になります。

## **6号棟「チョーサー棟」：ハーフトィンバー様式**

14世紀に英国が生んだ最高の詩人・文豪の名前を冠し、ラウンジには彼の傑作“カンタベリー物語”の初版本をイメージした画があります。

日本では“南北朝時代”に相当します。

## **7号棟「ターナー棟」：ジョージアン様式**

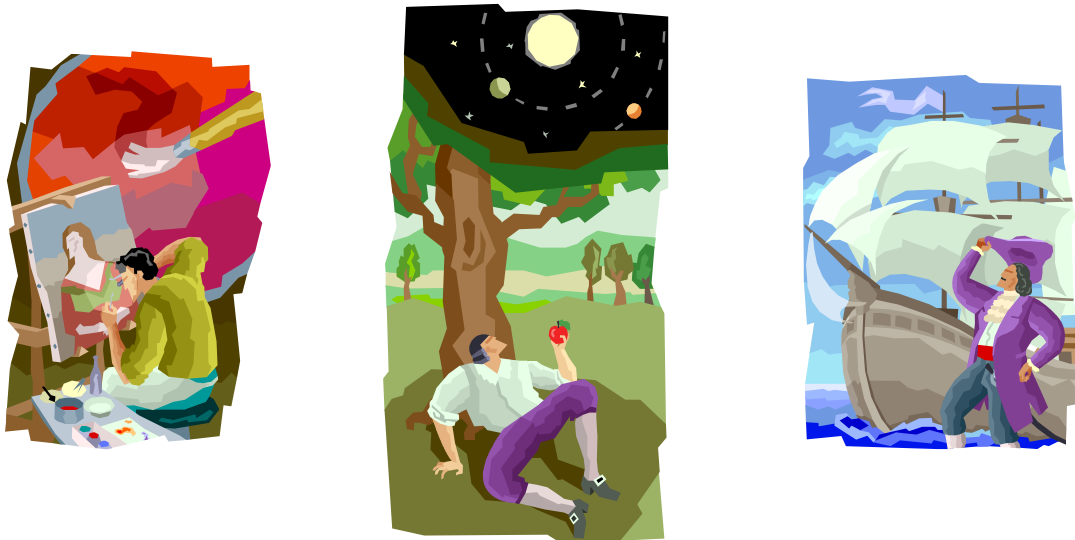
18世紀後半から19世紀にかけての英国の大画家サー・ジョゼフ・ターナーの名は明治の日本にもいち早く知られ、漱石の“坊ちゃん”にも登場している程です。英国が産業革命を推し進めていた頃、日本では文化・文政年間、即ち“江戸時代”のピークを迎えた時期に相当します。

尚、ラウンジの絵はターナーの作品の模写です。背景の水平線に見える英国海軍の軍艦まで実に良く描き込んであることにご注目下さい。

## **8号棟「ドレイク棟」：チューダー様式**

ヘンリー8世の後を継いだエリザベス1世の時代、即ち16世紀の後半にスペインの無敵艦隊を撃破し、海軍王国イングランドの基礎を築いたサー・フランシス・ドレイク提督の名をつけてあります。ラウンジにあるのは、当時の帆船と海図のイメージ画です。

日本では関ヶ原合戦の前夜とも言うべき時代で、かのウィリアム・アダムス（三浦按針）が日英関係史に登場して来る直前なのです。



## その他の建物について

### 「フォルスタッフパブ」

15～16 世紀の居酒屋兼旅宿を改築して現代のパブに仕上げたイメージなのです。名前の“フォルスタッフ”とは陽気な大酒飲みとして知られたサー・ジョン・フォルスタッフの事です。

英国版<小原庄助さん>とも言うべきこの人物はシェイクスピアも余程関心を持ったと見えて、“ヘンリー4世”“ヘンリー5世”そして“ウインザーの陽気な女房”という3本の戯曲に登場させています。

内装でご注目頂きたいのは、天井の表面にわざわざ電線が張りめぐらされているところです。これは元々、キャンドルからガス灯へ照明が変遷して来た時の流れに、遂に電気燈が登場した事を演出しているのです。

#### Falstaff Pub Menu Sample

未成年の方にはアルコールは販売しません

コーラ . . . . .	6BH£
ジンジャーエール . . . . .	6BH£
レモネード . . . . .	6BH£
ジュース各種 . . . . .	6BH£
ノンアルコールカクテル各種 . . . . .	6BH£
コーヒー・紅茶(ホット/アイス) . . . . .	6BH£
フライドポテト . . . . .	7BH£
フライドチキン . . . . .	9BH£
ミックスピッツァ . . . . .	9BH£
ミックスナッツ . . . . .	6BH£

### Darts ～ダーツ～

#### ●ダーツの歴史

今から500年前、イギリスの戦場で、兵士たちが戦いの合間の退屈しのぎに、短くて重い矢を投げて遊んだのが、ダーツの始まりです。

現在のダーツボードは、1600万本ものシサル(麻)の繊維を集めて、10トンの圧力で圧縮したものです。デザインは木の年輪を基にしています。

#### ●競技人数

競技は1対1か、チーム対チームで行われます。

#### ●競技に必要な道具

ダーツボード、ダーツ3本、ダーツ用マット

#### ●ゲームの進め方

ルールはダーツを1本ずつ投げて、中心に近い方が先行します。プレーヤーは交互に1回、1人3本のダーツを投げます。得点は、ダーツボード上に表示しており、ゲームの種類によってスコアの計算方法が変わります。

初心者には、ラウンド・ザ・クロックが適しています。これは、1・2・3……20という順に投げ、早く20に投げ入れたほうが勝ちという方法です。

ダーツの投げ方は、できるだけ体の動きを小さくして、腕や手首のブレをなくすことが重要です。「ふわっと押し出す」感じで投げるのがコツ。

## **「クラフトハウス：アスコットティールーム」**

これもまた 15～16 世紀の田舎家を改造したティールームと、階上には手工芸用の教室を備えた独立家屋のイメージを採っております。天井に電線が見えるのは“フォルスタッフパブ”と同じです。

ティールームには、ヴィクトリア朝時代以来、英国王室ご愛用となった競馬場に因んで、“アスコット”の名をつけてあります。1 階に掲げてあるのが正にご婦人方のファッション競争も兼ねていた“アスコット競馬場”の絵画です。オードリー・ヘップバーンが貴婦人になりすました映画“マイ・フェア・レディー”のコメディシーンそのままの絵柄です。

同じく 1 階にあるポートレイトは“イザベラ・ビートン夫人”です。英国社会に於ける婦人の地位向上の波に乗って 19 世紀中頃に“ビートン夫人の家政読本 (Mrs. Beeton House Management)”を出版し、一躍ベストセラーに仕上げってしまった才女です。現代ならば、さしずめ TV の人気キャスターで料理番組の審査員といったところでしょう。

実は、この才女は 30 才の誕生日を迎える直前にこの世を去り、その後は残されたご主人のミスター・ビートンが彼女の名前で改訂増補版を書きつづけていたのでした。

## **「バラック棟：9号棟」**

バラック棟 (The Barracks) は、英国に残る古城をモデルとして設計し、「その昔、騎士や兵士が居住した重厚な空間を、現代のパブリックスクールとして甦らせた施設」という設定となっております。

【Guest Rooms (宿泊室)】

お部屋はドミトリタイプ (バス/トイレ共用) で4名1室でのご滞在になります。フットチェスト・机・椅子は人数分備えております。一部、3名部屋もあります。

※4名部屋には、兵舎らしくハンモックを取りつけています

【Lounges (ラウンジ)】

各階のウィングの間にはラウンジがあります。日中や夕食後のフリータイムなどにご利用ください。

【Classrooms (研修室)】

各階に20名収容の研修室が3室ずつあります。1階の研修室は可動式パーテーションで仕切られており、大研修室としての利用も可能です。

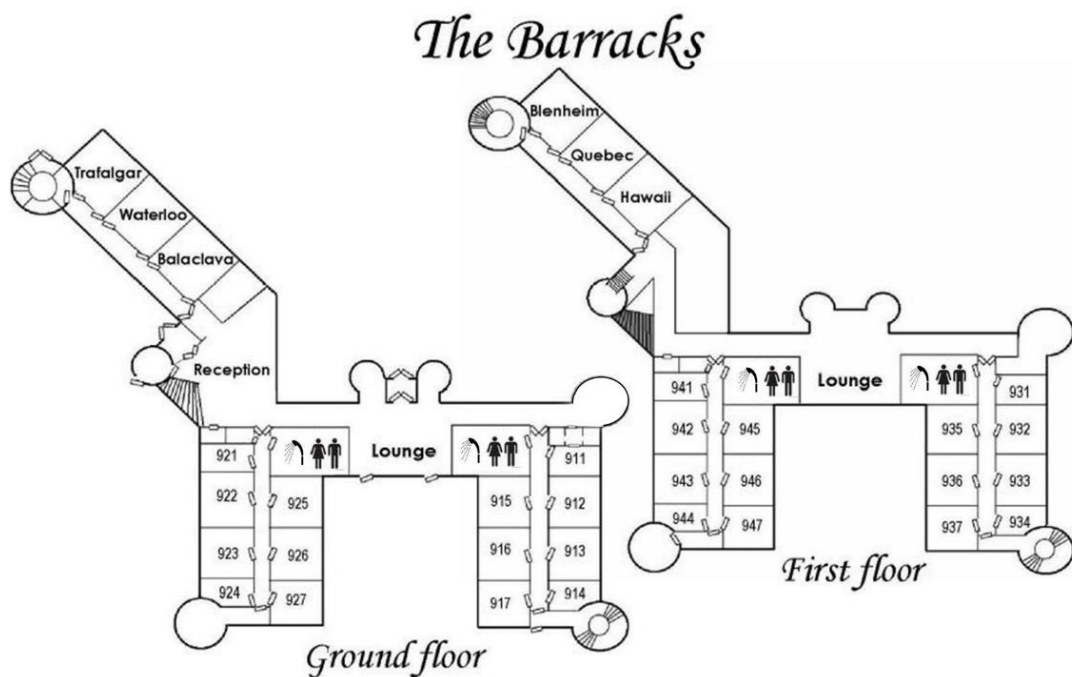
※研修室名は英国軍の歴史上有名な戦いを引用しています。

1F: BALACLAVA・WATERLOO・TRAFALGER

2F: HAWAII・QUEBEC・BLENHEIM

【Dining Hall (ダイニングホール)】

英国パブリックスクールのスタイルを基調に、終始、英語でのコミュニケーションの機会を多く作り、寄宿生活でのルールとマナーを体験するブリティッシュヒルズの新たな魅力となっています。



### 【Grandfather's Clock】(1階レセプション)

The story of an Old Clock (古時計の物語) として、教科書にも出てくる馴染み深いお話。イギリスのジョージホテルのロビーに置かれた木製の古時計の実話をもとにヘンリー・クレイ・ワークが作詞作曲した「大きな古時計」の歌は誰もが口ずさむ楽曲として、世界各地で愛されています。

ブリティッシュヒルズの Barracks ロビーに古時計が設置されたのは、2013年7月22日ウィリアム王子とキャサリン妃のご子息、ジョージ王子が誕生した日です。古時計の物語のように、これからも多くの時を刻み、ロビーを行き交う人々を静かに見守ってくれることでしょう。こちらの置時計は1880年代に、イギリスの Hertfordshire で製作されたものです。長い針が毎時12時を指すと、Big Ben と同じメロディを奏でます。100年以上の時を超え、今なお優しく厳かに響き渡る美しい鐘の音に耳をすましてみませんか。

### 【Miniature 17th Century Cannon】(1階レセプション)

ヨーロッパ大陸において大砲が戦役として本格的に活躍し始めたのは15世紀の初頭。以降、火砲の改新と強度を高めた鑄造技術の発達により、高い破壊力をもった重砲は難攻不落の都市をいとも簡単に陥落させる武器として飛躍的な技術発展を遂げます。

兵器自体の仕組みは原始的ですが、敵に対して心理的にもダメージを与える事が出来る。その事を古代や中世の砲兵達は十分に知っていたようです。すごい威力なので攻撃されると敗北を予測してしまい、気持ちの面で負けて絶望感を抱かれる。精神的にもかなりのダメージを負う。弾が飛んでくる音は、恐怖の象徴であり、古代の石も現代の砲弾も同じ、狙われたら抵抗する術はない、正に最強の兵器。勇敢な兵士達の気力を抉いて戦うことを諦めさせてしまう、大砲にはそれほどまでに恐ろしい破壊的な威力があったのです。

こちらの展示品は1880年代、イギリス人ジョセフ・ホイットワースの設計によるホイットワース12ポンド11オンス後装砲のミニチュア版です。

### 【Armstrong 80 Pound Cannon】(バラック棟正面付近)

日本に初めて大砲がもたらされたのは、1576年(天正4年)、大友宗麟(おおともそうりん)がポルトガルの宣教師より石火矢(フランキ砲)を入手し「国崩し」と名付けられたのが始まり。その後、鎖国により日本の大砲文明は途絶しましたが、戊辰戦争、明治維新を経て、その後の30年間で日本は欧米の兵器産業レベルに追い付きました。アームストロング砲は、1855年英国で開発された近代の後装砲の先駆けとなったもので、命中精度が非常に高かった大砲です。

戊辰戦争(1868年)で、アームストロング砲が猛威を振るった戦いは「上野戦争」と「会津戦争」。こちらの大砲は2013年度NHK大河ドラマにおいて、鶴ヶ城籠城戦闘シーンに幾度となく登場した大砲。幕末期、外国勢を迎え撃つために、品川台場に設置された青銅カノン砲と同型、全長3,830mm。撮影に合わせ、ラトビアで特別に製造されたもので、内包は鉄、外砲はFRPでできております。迫力ある実物大の大砲に、当時の射撃威力のすさまじさを想像してみてください。



# *British Hills*

株式会社ブリティッシュ・ヒルズ

東京オフィス	〒101-0047 東京都千代田区内神田 2-13-9 TEL:03-3258-5847 FAX:03-3258-5848
現地研修施設	〒962-0622 福島県岩瀬郡天栄村大字田良尾字芝草 1-8 TEL:0248-85-1313 FAX:0248-85-1300
ホームページ	<a href="https://www.british-hills.co.jp/">https://www.british-hills.co.jp/</a>

(2021.2.19)